

日商簿記3級 頻出論点だけで合格ライン講座

第3回 追加問題集

仕訳の超頻出13パターン②(パターン7～13)

動画内の演習よりも問題数を増やし、内容を定着させるための問題集です。各大問は「問題ページ」の直後に「解答・解説ページ」を置いています。動画を見た後、この問題集だけで一通り復習できるように作っています。パターン1～6の追加問題は第2回の問題集にあります。

- ・ 大問1 仕訳 固定資産の取得・修繕費・給料の支払(7問)
- ・ 大問2 仕訳

株式会社・消費税・法人税等・貸付借入金(手形貸付/借入含む)・訂正仕訳(14問)

- ・ 大問3 証ひょう問題(領収書・請求書・納品書、3問)
- ・ 大問4 複合・応用の仕訳にチャレンジ(4問)

大問1 仕訳(1)

次の取引を仕訳しなさい。「借方」「貸方」の欄に科目と金額を書き込みましょう。

No	取引	借方	貸方
1	備品150,000円を購入し、設置費用8,000円とともに代金は月末払いとした		
2	建物2,000,000円を購入し仲介手数料50,000円とともに小切手で支払った		
3	給料250,000円から源泉所得税15,000円・社会保険料12,000円を差し引き支払った		
4	建物の外壁の破損部分を修理し、修理代40,000円を現金で支払った		
5	建物の増築工事を行い、工事代500,000円を現金で支払った		
6	店舗の設備を維持管理するため、修繕業者に60,000円を現金で支払った		
7	店舗に空調設備を設置し、性能向上のための工事費350,000円を現金で支払った		

大問1 解答・解説

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	備品	158,000	未払金	158,000
2	建物	2,050,000	当座預金	2,050,000
3	給料	250,000	所得税預り金	15,000
			社会保険料預り金	12,000
			現金	223,000
4	修繕費	40,000	現金	40,000
5	建物	500,000	現金	500,000
6	修繕費	60,000	現金	60,000
7	建物	350,000	現金	350,000

1. 設置費用は備品を使える状態にするための費用 → 取得原価に含める($158,000=150,000+8,000$)
2. 仲介手数料は建物を取得するために必要な費用 → 取得原価に含める($2,050,000=2,000,000+50,000$)
3. 源泉所得税・社会保険料(従業員負担分)は預り金(負債)として処理し、残額223,000($250,000-15,000-12,000$)を現金で支払う
4. 通常の維持・修理(原状回復)のための支出 → 収益的支出として修繕費(費用)で処理する
5. 価値を高める・耐用年数を延ばす改良のための支出 → 資本的支出として取得原価に加算する
6. 設備の維持管理のための支出 → 収益的支出として修繕費(費用)で処理する
7. 設備の設置・性能向上のための支出 → 資本的支出として取得原価に加算する

大問2 仕訳

次の取引を仕訳しなさい。「借方」「貸方」の欄に科目と金額を書き込みましょう。

No	取引	借方	貸方
1	会社の設立にあたり、株式を発行し、株主より現金500,000円の払込みを受けた		
2	株主総会で配当金80,000円・利益準備金8,000円積立を決議(財源:繰越利益剰余金)		
3	商品60,000円(税抜)を仕入れ、消費税10%とともに代金は現金で支払った		
4	商品120,000円(税抜)を売り上げ、消費税10%とともに代金は掛けとした		
5	法人税等の中間申告を行い、90,000円を当座預金から納付した		
6	取引先へ現金300,000円を貸し付け、借用証書を受け取った		
7	上記6の貸付金を、貸付期間9か月・年利率4%の利息とともに現金で回収した		
8	売掛金70,000円の回収を誤って受取手数料としていた。正しく訂正しなさい		
9	取引先へ約束手形を受け取り、現金400,000円を貸し付けた		
10	上記9の手形貸付金を、貸付期間3か月・年利率5%の利息とともに現金で回収した		
11	取引先へ約束手形を差し入れ、現金250,000円を借り入れた		
12	上記11の手形借入金を、借入期間5か月・年利率3%の利息とともに現金で返済した		

No	取引	借方	貸方
13	商品180,000円(税抜)を売り上げた。消費税10%、80,000円は現金、残額は掛け		
14	上記2の配当金80,000円を、後日普通預金から支払った		

大問2 解答・解説

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	500,000	資本金	500,000
2	繰越利益剰余金	88,000	未払配当金	80,000
			利益準備金	8,000
3	仕入	60,000	現金	66,000
	仮払消費税	6,000		
4	売掛金	132,000	売上	120,000
			仮受消費税	12,000
5	仮払法人税等	90,000	当座預金	90,000
6	貸付金	300,000	現金	300,000
7	現金	309,000	貸付金	300,000
			受取利息	9,000
8	受取手数料	70,000	売掛金	70,000
9	手形貸付金	400,000	現金	400,000
10	現金	405,000	手形貸付金	400,000
			受取利息	5,000
11	現金	250,000	手形借入金	250,000
12	手形借入金	250,000	現金	253,125
	支払利息	3,125		
13	現金	80,000	売上	180,000
	売掛金	118,000	仮受消費税	18,000
14	未払配当金	80,000	普通預金	80,000

- 株主から集めた元手である資本金(純資産)が増え、その分だけ現金(資産)も増える
- 配当と積立の財源である繰越利益剰余金(純資産)を88,000(80,000+8,000)減らし、未払配当金(負債)と利益準備金(純資産)に分ける
- 商品本体60,000円は仕入(費用)、消費税6,000円(60,000×10%)は仮払消費税(資産)として区分する
- 商品本体120,000円は売上(収益)、消費税12,000円(120,000×10%)は仮受消費税(負債)として区分する
- 中間納付額はあくまで概算の前払い → 費用ではなく仮払法人税等(資産)として処理する
- 現金を貸し付けた → 貸付金(資産)の増加、現金(資産)の減少

7. 年利率4%は1年分の利息。9か月分なので9/12をかけて計算: $300,000 \times 4\% \times 9/12 = 9,000$ 円
8. 誤って貸方に計上した受取手数料70,000を借方に書いて打ち消し、正しい貸方科目である売掛金70,000を計上する
9. 約束手形を受け取って貸し付けた → 手形貸付金(資産)の増加、現金(資産)の減少
10. 年利率5%は1年分の利息。3か月分なので3/12をかけて計算: $400,000 \times 5\% \times 3/12 = 5,000$ 円
11. 現金を借り入れた → 手形借入金(負債)の増加、現金(資産)の増加
12. 年利率3%は1年分の利息。5か月分なので5/12をかけて計算: $250,000 \times 3\% \times 5/12 = 3,125$ 円
13. 本体180,000円は売上、消費税18,000円($180,000 \times 10\%$)は仮受消費税として区分する。合計198,000円のうち80,000円は現金、残り118,000円($198,000 - 80,000$)は売掛金
14. 配当決議時に計上した未払配当金(負債)を取り崩し、実際に支払った普通預金(資産)を減少させる

大問3 証ひょう問題(1) 領収書

次の証ひょうにもとづいて仕訳しなさい。

当社は、はまなす文具店で文房具を購入し、代金を小切手を振り出して支払い、以下の領収書を受け取った。

領 収 書

上記正に領収いたしました

¥ 300,000－

但し 文房具代として

内訳 小切手

はまなす文具店

借方科目	金額	貸方科目	金額

大問3 解答・解説(1) 領収書

借方科目	金額	貸方科目	金額
消耗品費	300,000	当座預金	300,000

領収書の内容(文房具代300,000円を小切手で支払った)をそのまま仕訳にする。小切手を振り出して支払った=当座預金からの支払いを約束すること → 貸方は当座預金

大問3 証ひょう問題(2) 請求書

次の証ひょうにもとづいて仕訳しなさい。

当社は、神奈川商事株式会社より商品を仕入れ、以下の請求書を受け取った。代金は掛けとした。

請 求 書			
当社 御中			
品名	数量	単価	金額
商品B	80	800	64,000
		合計	64,000
神奈川商事株式会社			

借方科目	金額	貸方科目	金額

大問3 解答・解説(2) 請求書

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	64,000	買掛金	64,000

請求書の金額(80個×@800円=64,000円)を仕入原価として計上する。代金は掛けなので貸方は買掛金

大問3 証ひょう問題(3) 納品書

次の証ひょうにもとづいて仕訳しなさい。消費税は税抜方式で記帳している。

当社は、埼玉物産株式会社より商品を仕入れ、品物とともに以下の納品書を受け取り、代金は後日支払うこととした。

納 品 書			
当社 御中			
品名	数量	単価	金額
商品	1	200,000	200,000
		消費税(10%)	20,000
		合計	220,000
埼玉物産株式会社			

借方科目	金額	貸方科目	金額

大問3 解答・解説(3) 納品書

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	200,000	買掛金	220,000
仮払消費税	20,000		

本体200,000円は仕入(費用)、消費税20,000円($200,000 \times 10\%$)は仮払消費税(資産)として区分する。代金は後日払いなので、合計220,000円が買掛金(負債)になる

大問4 複合・応用の仕訳にチャレンジ

次の取引を仕訳しなさい。1つの問題に2つの取引が含まれるものがあります。

No	取引	借方	貸方
1	借入金300,000円を、利息4,500円とともに当座預金から返済した		
2	商品150,000円(税抜)を売り上げ、消費税10%とともに代金は掛けとした。あわせて、発送費3,000円(当社負担)を現金で支払った		
3	増資により株式100株を1株700円で発行し、当座預金に払込みを受けるとともに、法人税等の中間申告として50,000円を現金で納付した		
4	商品90,000円(税抜)を仕入れ、消費税10%とともに代金は掛けとした。あわせて、貸し付けていた200,000円を、利息3,000円とともに現金で回収した		

大問4 解答・解説

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	借入金	300,000	当座預金	304,500
	支払利息	4,500		
2	売掛金	165,000	売上	150,000
	発送費	3,000	仮受消費税	15,000
			現金	3,000
3	当座預金	70,000	資本金	70,000
	仮払法人税等	50,000	現金	50,000
4	仕入	90,000	買掛金	99,000
	仮払消費税	9,000		
	現金	203,000	貸付金	200,000
			受取利息	3,000

- 元本の返済(借入金という負債の減少)と利息の支払い(支払利息という費用の発生)は性質が違うので別科目で処理する
- 本体150,000は売上、消費税15,000($150,000 \times 10\%$)は仮受消費税として区分し、あわせて発送費3,000は仕入に含めず別に計上する
- 増資の払込金額70,000円($100\text{株} \times 700\text{円}$)がそのまま当座預金と資本金の増加になる。中間納付額50,000円は概算の前払いなので仮払法人税等(資産)として処理する
- 商品本体90,000は仕入、消費税9,000($90,000 \times 10\%$)は仮払消費税として区分し合計99,000が買掛金になる。貸付金200,000の回収に利息3,000を加えた203,000を現金で受け取る